

平成28年度 第2回 滋賀県環境こだわり農業審議会 議事次第

日 時：平成29年2月13日 14:00～16:00

場 所：滋賀県農業教育情報センター

第1研修室

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

- ・環境保全型農業直接支払交付金の概要について

資料1

<質疑>

- ・環境こだわり農業の深化に向けて

資料2

- ・現状と課題
- ・環境こだわり農業の更なる推進に向けて有機農業等の取組の検討

- ・平成29年度関連予算案の概要

資料3

<質疑>

4 その他

5 閉 会

《参考資料》

- ・第1回滋賀県環境こだわり農業審議会での主な意見
- ・環境こだわり米のPRキャンペーン結果

平成28年度第2回滋賀県環境こだわり農業審議会委員名簿

任期：平成28年4月1日～平成30年3月31日

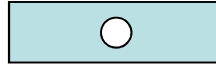
(50音順、敬称略)

委員氏名	役職等	出欠
い で しん じ 井 手 慎 司	滋賀県立大学環境科学部（環境科学部長）	出
おか の さ なえ 岡 野 早 苗	滋賀県生活協同組合連合会（理事）	出
おか もと たか こ 岡 本 孝 子	なにわの消費者団体連絡会（事務局長）	出
お がわ たか こ 小 川 孝 子	滋賀県栄養教諭・学校栄養職員研究会 （河瀬小学校 栄養教諭）	出
かた やま めぐ み 片 山 恵 美	滋賀県青年農業者クラブ連絡協議会（役員）	出
かわ い さだ お 河 合 定 郎	農業法人有限会社甲賀もち工房（代表取締役）	出
きた がわ ゆき お 北 川 幸 夫	全国農業協同組合連合会滋賀県本部（副本部長）	出
くろ かわ しん いち 黒 川 信 一	株式会社平和堂（一般食品事業部 部長）	出
こ にし たかし 小 西 貴	株式会社糴や儀平（店主）	欠
しぶ や なほ み 澁 谷 尚 美	公募委員	欠
たけ やま つとむ 竹 山 勉	滋賀県指導農業士会（監事）	出
たち ばな なお こ 立 花 尚 子	公募委員	出
た なか かつ や 田 中 勝 也	滋賀大学環境総合研究センター（教授）	出
なか い こう じ 中 井 浩 二	滋賀びわ湖青果株式会社（取締役営業本部長）	出
なが い さち こ 永 井 幸 子	こだわり滋賀ネットワーク（大津・高島支部長）	欠
ふか お よし お 深 尾 善 夫	滋賀県農業協同組合中央会（専務理事）	出
ほそ かわ たか ひろ 細 川 貴 紘	滋賀県JAファーマーズ・マーケット連絡会議 （JA北びわこゆめまる館店長）	欠
わた なべ ゆい こ 渡 邊 維 子	公募委員	欠

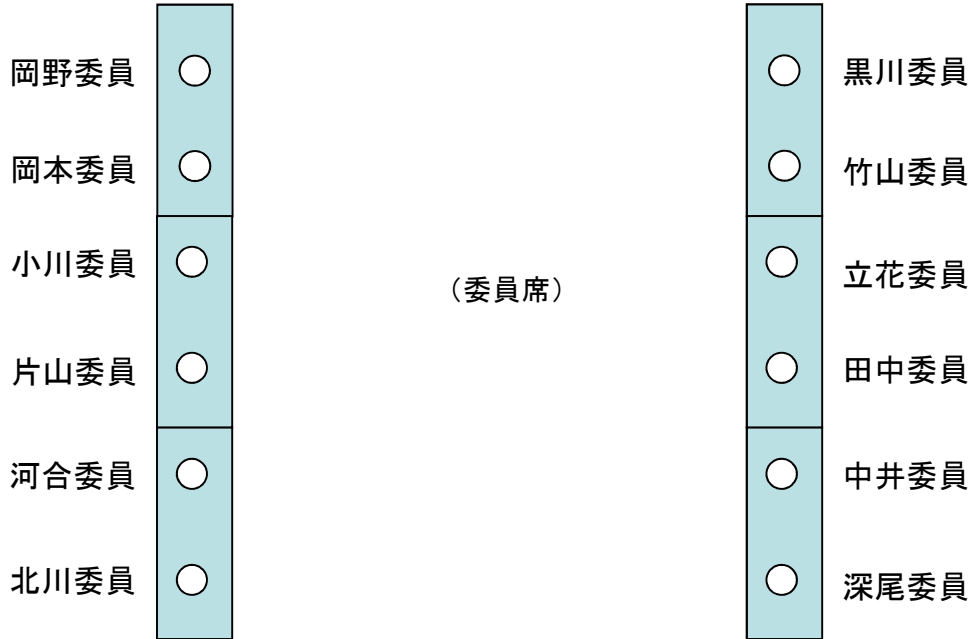
滋賀県環境こだわり農業審議会 座席表

平成29年2月13日(月)14:00~16:00
滋賀県農業教育情報センター 第一研修室

井手会長



マイクスピーカー

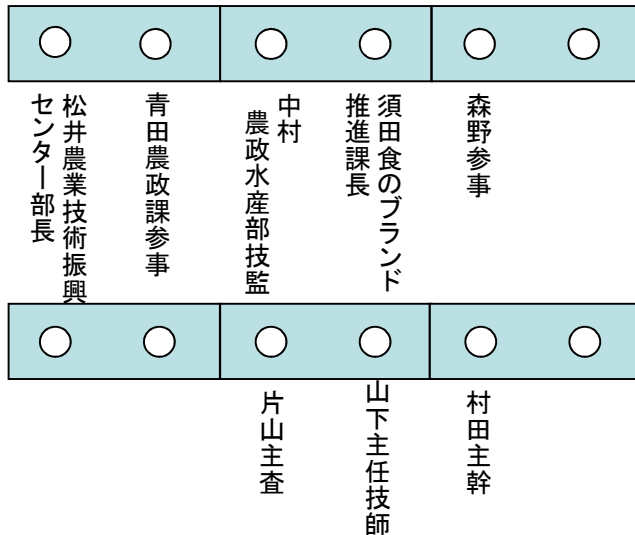


速記席

記者・傍聴席

記者・傍聴席

(事務局)



出入口

平成 28 年度環境保全型農業直接支払交付金の概要

農業の有する多面的機能の発揮の促進を図るため、自然環境の保全に資する農業生産活動を支援

【対象者】

農業者の組織する団体、一定の条件を満たす農業者等

【支援対象取組】

環境こだわり農産物の生産と合わせて行う地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動

《全国共通取組:3、滋賀県の地域特認取組:14》

	取組名		交付単価(10aあたり)	
全国共通取組	①	カバークロープの作付	8,000 円	
	⑤	有機農業の取組	雑穀以外	8,000
			雑穀	3,000
	⑥	堆肥の投入	4,400	
滋賀の 地域特認取組	②	リビングマルチ	8,000	
	③	草生栽培	8,000	
	④	冬期湛水管理	8,000	
	⑦	炭の投入	5,000	
	⑧	IPMの実践、畦畔の人手除草および長期中干し	4,000	
	⑨	希少魚種等保全田の設置	3,000	
	⑩	バンカープランツの植栽	8,000	
	⑪	緩効性肥料の利用および長期中干し	4,000	
	⑫	緩効性肥料の利用および省耕起	大豆	4,000
			野菜	8,000
	⑬	水田ビオトープ	4,000	
	⑭	水田の生態系に配慮した雑草管理	4,000	
	⑮	IPMの実践	大豆・小豆・露地野菜	4,000
			施設野菜・果樹・茶	8,000
⑯	在来草種の草生による天敵利用	4,000		
⑰	緩効性肥料の利用および深耕(茶)	8,000		

【交付金の負担区分】

※交付単価は、国・県・市町からの合計額

国 1/2、県 1/4、市町 1/4

【交付方法】

国 → 県 → 市町 → 農業者団体等

【複数の支援】

複数(2つまで)の取組にも支援可能

《例》(緩効性肥料+長期中干し)4,000 円/10a

+ 生態系に配慮した雑草管理 4,000 円/10a=8,000 円/10a

環境保全型農業直接支払交付金の実施状況

1. 実施面積の推移

本交付金の県内での実施面積は年々増加しており、平成 27 年度では約 15,239ha となった。複数取組の増加もあり、約 17,505ha の実施見込みとなっている。

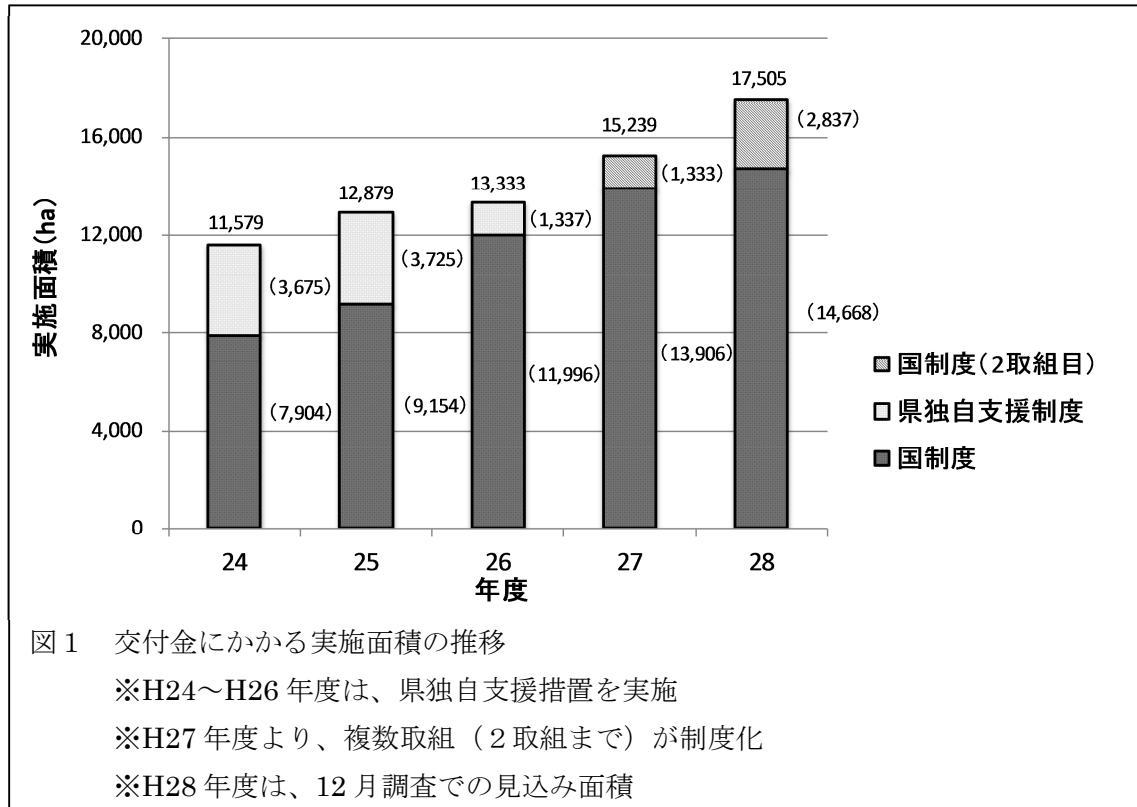


図1 交付金にかかる実施面積の推移

※H24～H26年度は、県独自支援措置を実施

※H27年度より、複数取組（2取組まで）が制度化

※H28年度は、12月調査での見込み面積

【参考】

本交付金の全国での実施面積は平成 27 年度で 74,180ha で、そのうち滋賀県は約 2 割を占めている。

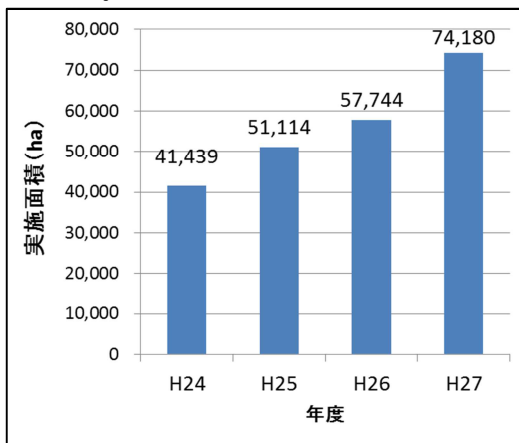
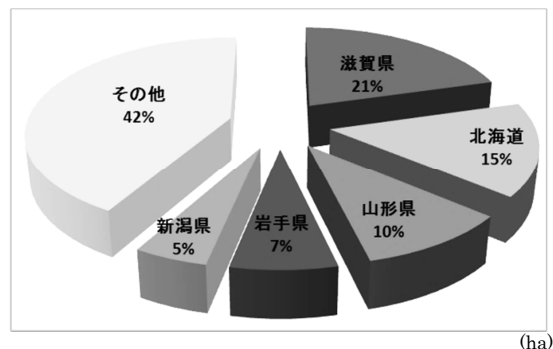


図2 全国の実施面積の推移



滋賀県	北海道	山形県	岩手県	新潟県	その他
15,239	11,504	7,561	5,239	3,648	30,989

図3 実施面積の割合 (H27)

2. 支援対象取組別の面積

取組面積のうち、⑧「IPMの実践、畦畔の人手除草および長期中干し」と⑪「緩効性肥料の利用および長期中干し」が7割以上を占めている。

前年度より、⑭「水田の生態系に配慮した雑草管理」、①「カバークロップ」、⑦「炭の投入」等に多く取り組まれている。

表 支援対象取組別の実施面積

(a)

	環境保全効果	H27			H28		
		第1取組	第2取組	計	第1取組	第2取組	計
① カバークロップ	温	40,777	4,601	45,378	50,754	9,301	60,055
② リビングマルチ	温	5,937	0	5,937	8,509	97	8,606
③ 草生栽培	温	19	0	19	22	0	22
④ 冬期湛水	生	6,657	4,965	11,622	9,671	6,296	15,967
⑤ 有機農業(下記以外)	温・生	28,809	210	29,019	29,569	1,952	31,521
⑤ 有機農業(雑穀等)	温・生	20,958	418	21,376	21,234	1,610	22,844
⑥ 堆肥の投入	温	41,998	12,650	54,648	51,855	7,952	59,807
⑦ 炭の投入	温	16,106	16,173	32,279	35,590	6,947	42,537
⑧ IPM+畦畔人手除草+長期中干し	温・生	620,889	30,538	651,427	544,365	64,936	609,301
⑨ 魚種等保全水田	生	6,115	71	6,186	260	4,585	4,845
⑩ バンカープランツ	生	17	0	17	17	0	17
⑪ 緩効性肥料+長期中干し	温	474,307	3,648	477,955	577,179	18,724	595,903
⑫ 緩効性肥料+省耕起(大豆)	温	21,943	0	21,943	29,495	0	29,495
⑫ 緩効性肥料+省耕起(露地野菜)	温	0	0	0	104	3	107
⑬ 水田ビオトープ	生	4,342	3,806	8,148	2,018	9,231	11,249
⑭ 水田雑草管理	生	19,456	50,051	69,507	19,010	138,845	157,855
⑮ IPM(大豆・露地野菜)	生	76,354	5,981	82,335	79,841	12,041	91,882
⑮ IPM(施設野菜・果樹・茶)	生	2,394	202	2,596	3,471	1,151	4,622
⑯ 在来草種の草生	生	3,532	0	3,532	3,777	0	3,777
⑰ 緩効性肥料+深耕(茶)	温	-	-	-	41	0	41
計		1,390,610	133,314	1,523,924	1,466,741	283,671	1,750,453

※環境保全効果は、温：温暖化防止、生：生物多様性保全への効果を示す

※H28年度は、12月末調査での見込み面積

平成28年度環境保全型農業直接支払交付金の国配分額不足への対応について

1 経過

- 8月17日 国交付金内示・・・全国の要望額が国予算額を上回ったため減額された
国内示額 322,105千円（申請額の84%）
- 8～9月 県・市町の独自措置の調整
H28に限り、第2取組不足分について、県は当初設定単価の1/4分を交付し、市町も県同様の措置を協力要請し交付される方向で調整
- 10月6日 常任委員会で状況説明
- 10月6日～ 市町を通じて全ての申請者（個人、団体代表者）に対し周知
- 11月22日 国から追加配分はできない旨回答（政策提案時）
- 12下～1上 農業者・農業団体等から、設定単価どおりの交付を求める要望
- 1月19日 J A中央会、農政連が知事に緊急要請

2 対応

平成28年度については、農業者の取組は既に終わっており、国に対して追加配分の要望をしてきたが、追加配分がないこととなったことから、極めて特別な措置となるが、第2取組の国費の不足分を県費で負担し、当初設定単価どおり農業者に支払う。

3 平成28年度予算（2月補正）

（千円）

区分	当初予算額A	所要額B	補正必要額B-A	説明
国費	370,328	322,105	△48,223	国配分額の減額
県費	185,164	242,227	57,063	第2取組の国費不足分を県費で負担
計	555,492	564,332	8,840	

【参考】

①平成28年度 国交付金の状況

必要額 376,221千円－配分額 322,105千円 = **不足額 54,116千円**

②国交付金の第1取組、第2取組ごとの充足率

	取組面積(最終見込)	充足率
第1取組	14,668ha	100%
第2取組	2,837ha	10.8%
計	17,505ha	

③平成28年度 第2取組交付単価（4,000円/10aの場合）

当初設定単価		第2取組の交付単価（円/10a）		
		国：県：市町＝ 2：1：1で 交付する場合	国の減額分を県が負担する 【今回】	
		420	4,000	
内 訳	国	210*	210*	
	県	105	2,790	
	市町	105	1,000	

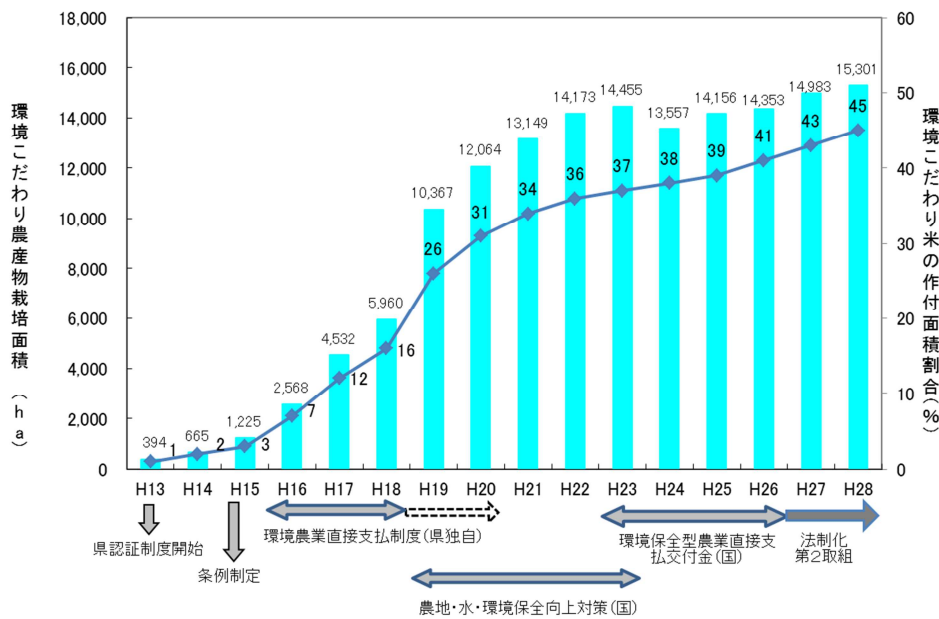
※交付単価の国分は、第2取組の国費充足率(10.8%)を、当初設定単価に乗じた金額で算出しています(10円未満切捨て)。

環境こだわり農業の深化に向けて

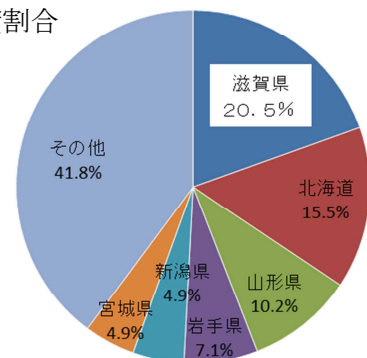
1 環境こだわり農業の現状と課題

(経過・現状)

- 平成15年に滋賀県環境こだわり農業推進条例を制定し、16年度からは全国に先駆けて環境農業直接支払制度を導入して、環境こだわり農業に取り組む農業者を支援してきた。さらに、19年度からは、本県の先進的な取組を取り入れる形で開始された、国の制度を積極的に活用するなどしながら、環境こだわり農業を本県農政の核として推進してきた。
- この結果、環境こだわり農業の取組は広がりを見せ、水稻においては県全体の45%が環境こだわり農産物として栽培され、県内をはじめ京阪神地域などにも流通・販売が進んできた。
- 環境保全型農業直接支払交付金の取組面積は全国の20%(H27)を占め、日本一となっている。
- 県内における化学合成農薬の使用量は、平成12年度と比較して約4割削減(H26)された。



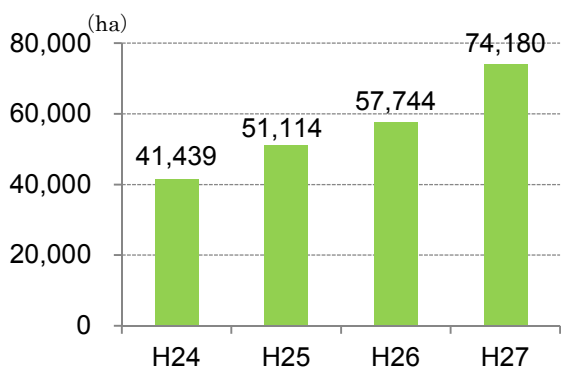
環境こだわり農産物栽培面積と環境こだわり米作付面積割合の推移（滋賀県）
※平成28年度は暫定値



平成27年度環境保全型農業直接支払交付金取組状況

(課題)

- 環境こだわり農産物の消費者への県民の認知度は徐々に増加してきているものの、43.5% (H26) にとどまっており、環境こだわり農業の意義が十分に伝わっていない。
- 環境こだわり農産物であるというだけでは付加価値が付きづらい。
- 消費者へのPRが不十分で、環境こだわり農産物を購入したことのない人が50.4% (H26)。理由は「知らないから」「売っているのを見かけないから」が多い。
- 環境こだわり農業がスタンダード化する中で、近年全国が取組が拡大し、優位性は薄らいでいる。
- 環境こだわり米の作付割合は、平成30年度に50%、32年度には50%以上という目標を掲げているものの、病害虫・雑草の発生や低価格米対応等で、将来的にさらなる大幅な面積拡大は見込みづらい。
- 野菜などの園芸作物は、数年前から栽培面積は伸び悩んでおり、消費者が選択して購入できる環境には至っていない。
- 平成30年からの米政策の見直し等により産地間競争はより一層激化すると予測され、本県農業の競争力の強化を図ることが喫緊の課題となっている。
- 平成28年度は、環境保全型農業直接支払交付金の国からの配分が必要額に満たないという事態が初めて生じ、また、31年度には国の制度見直しが検討されており、国の動向を見据えた今後の支援制度のあり方の検討が必要。



環境保全型農業直接支払交付金の取組面積の推移 (全国)

(百万円)

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29
予算額	2,470	2,470	2,470	2,470	2,310	2,310
決算額	1,497	1,540	1,697	2,106	—	—

環境保全型農業直接支払交付金の予算額・決算額の推移 (国)

2 環境こだわり農業の深化の必要性

このような背景から、全国の環境保全型農業をけん引してきたトップランナーとして、環境こだわり農産物の面積拡大・維持を図りつつ、さらに進んだ取組を新たに推進し、全国に誇れるブランドとして構築していく「環境こだわり農業の深化」が必要。

3 環境こだわり農業の深化の方向性

- 環境こだわり農業推進条例の目的である「より安全で安心な農産物の消費者への供給」および「琵琶湖等の環境保全」に資する取組で、環境こだわり農業のブランド力向上および本県農業の競争力強化につながる必要があるのではないか。

「新たな深化」

(例)

- ・有機農業
- ・有機農業に準じる取組（除草剤のみ使用）
- ・魚のゆりかご水田米
- ・園芸作物

【参考】

- ・全国的な調査では、新規就農者の28%が有機農業による就農を希望されるなど、新たに有機農業を行おうとする者の拡大が見込まれる。また、流通加工業者等実需者では、条件が合えば有機農産物を取扱いたいという者が64%存在する。
- ・県内の有機農業に取り組む農業者は、「5割削減」という表示では、農薬を使用していると誤解されるため、認証マークを使用されないケースが多い。

4 今後協議が必要な事項

環境こだわり農業の深化に向け、以下の事項の検討が必要ではないか。

- ①有機農業等新たな方向性の検討
- ②有機農業等の新たな表示、認証・確認のあり方
(現行制度の検証を含む)
- ③有機農業等の水稻栽培技術の現地実証・体系化
- ④有機農業等の販路拡大、ブランド化に向けた検討
(環境こだわり農産物を含む)
- ⑤環境保全型農業直接支払の支援対象取組の効果検証

5 検討スケジュール

別紙(案)のとおり

環境こだわり農業の深化に向けた行程表（案）

	H28	H29		H30		H31	
主な動き				米政策の変更		世界農業遺産認定目標	
環境こだわり米作付割合 目標（現状 H28 45%）		47%		50%		50%以上	
環境こだわり農業 審議会	2月 検討事項整理	6月 具体的検討	12月 論点整理	6月 原案	9月 最終案		
(仮称)有機農業等協議会 (有機農業実践農業者、農業団体、県等で構成)		詳細な検討・課題整理(4回程度開催)					
検討事項等		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○有機農業等新たな方向性の検討</p> <p>新たな方向性の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農業 ・有機農業に準じる取組（除草剤のみ使用） ・魚のゆりかご水田 ・園芸作物 <p>○有機農業等の新たな表示、認証・確認のあり方</p> <p>○有機農業等の水稻栽培技術の現地実証・体系化</p> <p>○有機農業等の販路拡大、ブランド化に向けた検討</p> <p>○環境保全型農業直接支払の支援対象取組の効果検証</p> </div>				<div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">周知</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> 環境こだわり農業の 深化 リニューアール スタート </div>
(環境保全型農業直接支払交付金に関する国の動き)		(制度見直し検討)		(見直し一部実施)		(本格見直し実施)	

有機農業の取組状況

- 1 平成27年度環境保全型農業直接支払交付金のうち「有機農業の取組」実施面積（平成28年8月、農林水産省生産局）

順位	都道府県	面積(ha)
—	全国	13,281
①	北海道	1,800
②	福井県	1,518
③	岩手県	824
：	：	：
⑧	滋賀県	504

平成26年度「有機農業の取組」 滋賀県 462ha (内訳) そば 231ha(50%) 水稻 197ha(43%) その他 34ha(7%)

- 2 有機JASほ場の面積（平成27年4月1日現在、農林水産省HP）
（合計面積）（うち田の面積）

順位	都道府県	面積(ha)
—	全国	10,043
①	北海道	2,502
②	秋田県	628
③	熊本県	628
：	：	：
⑱	滋賀県	174

順位	都道府県	面積(ha)
—	全国	2,863
①	秋田県	389
②	宮城県	325
③	新潟県	286
：	：	：
⑦	滋賀県	127

有機農業等の調査 中間とりまとめ

1. 実践者調査

●対象者

- ・調査者：14名
- ・有機 JAS 認証者：7名／14名

●取組内容（現状）

- ・有機 JAS 以外では、農薬および化学肥料の両方を使用しない人が多い
（一部の人には育苗のみで化学肥料を使用しており、農薬不使用で化学肥料は通常使用（5割以下含む）はない）
- ・有機 JAS を認証しない、または全圃場で認証しない理由
ブロックローテーションで圃場が固定できない、認証に費用がかかる、栽培に制限がかかる、まわりからの農薬飛散のため
- ・収量は 360kg/10a くらい（慣行は 500kg/10a のため、7割程度）
- ・労働時間は慣行栽培より手間がかかる（主に除草作業）
- ・販売価格：6,000 円/10kg（直売価格）、慣行栽培（直売価格）の約 1.5～2 倍
- ・雑草対策：2回代かき、米ぬか、除草機（手押し、乗用）、深水管理
- ・病害虫対策：畦畔草刈り、色彩選別機で対応（慣行と大差なし）
- ・地域との関わり：周辺でのヘリ等の防除がネック、転作対応
- ・販売：（ネット）直売が大半、一部で加工業者、スーパー出荷あり
- ・経営の位置づけでは、2パターンあり（①生産・販売の大半を有機農産物、②販売のアイテムのひとつ）。パターンは違えど、経営体としての販売力につながっている。
- ・有機 JAS にこだわる消費者は少なく、有機 JAS と同程度の栽培と分かれば、有機 JAS より安い米を購入することが多い。

●今後について

- ・ 現在は、需要量と作業可能量に応じて生産している。需要が増えれば、施設や人件費の投資を増やして生産量を増加する。
- ・ 今後も需要はあり、特に価格が下がればより増える。（価格に関わらず、購入者は買い、あまり需要が増えないとの意見もある。また、生産の拡大による価格競争への懸念もある。）
- ・ 需要量が増加すれば、生産量も増加したい意向
- ・ 有機農業を広げるためには、消費者へのPRの必要あり。また、技術研修会（交流会）も必要。
- ・ 県で農薬不使用の表示区分への反対はほとんどない（特に、有機JASを取得していない農業者には農薬不使用の表示区分は望まれる）。ただし、信頼される表示制度にする必要がある、またはこれまでの環境こだわり農業との整理が必要である、との意見が多い。

2. 非実践者

●対象者

- ・ 9名

●有機農業等への取組

- ・ 要望がないため、取り組む予定なし。
- ・ 要望があれば、取り組みたい。販路確保が必要。
- ・ 要望はあるものの、作業量が販売価格に見合うかわからない。また、実践するにしても、今の経営もあるので中途半端にはできない。
- ・ 除草対策が大変。安定的な収量がとれれば、行いたい。
- ・ 有機米を限られた消費者に高値で販売するよりも、環境こだわり米としてそ野を広く販売したい。
- ・ 環境こだわり農業を一步前進することは良い（他地域との差別化）。
- ・ 個人ではなく、産地化・グループ化するべき必要がある。

環境こだわり農業のさらなる推進

【予算額 714百万円】



より安全で安心な農産物を消費者に供給するとともに、琵琶湖等の環境を保全するため、環境こだわり米の作付面積割合(H28:45%)をH30に50%に拡大する。
この達成に向けて環境保全型農業直接支払交付金を活用した生産拡大を進めるとともに、日本一の取組であることを全国に発信しブランド力向上・消費拡大を図る。
さらに、有機農業等を含めた新たな推進方策の検討、および有機農業等の栽培技術の体系化を行い、環境こだわり農業の深化を目指す。

農政水産部 食のブランド推進課

環境こだわり農産物のブランド力向上・消費拡大

【関連事業】

みんなが育てる「みずかがみ」ブランド支援事業
15,414千円

全量が環境こだわり米である「みずかがみ」を近江米ブランドをけん引する品種に育てる。
・産地づくり支援
・プレミアム集荷の支援
・テレビCM放映

新 「日本一の環境こだわり農業」発信事業
9,343千円

滋賀県の環境こだわり農業の取組が日本一の取組で、生産者が琵琶湖のために努力していることを全国に発信

- ①環境こだわり農業の情報を農産物と一緒に届ける
- ②「日本一!!環境こだわり米」キャンペーン

新 環境こだわり農業の深化プロジェクト事業
2,500千円

環境こだわり農業の深化に向け、有機農業等を含めた新たな推進方策の検討、および有機農業等の栽培技術の体系化を行う。

- ①有機農業等を含めた環境こだわり農業のブランド力向上方策の検討
- ②有機農業等の新たな表示の検討
- ③有機農業等の水稻栽培技術の実証・体系化
- ④有機農業実践モデル経営体経営革新促進

流通・販売促進

深化

さらなる生産拡大

環境こだわり農業

- 環境保全型農業直接支払取組面積 全国1位 (全国の取組面積の20.5%:H27)
- 環境こだわり米作付比率45%(H28)

環境こだわり農業支援事業 701,723千円
(環境保全型農業直接支払交付金664,740千円)

環境こだわり農産物の生産とあわせて地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に取り組む場合に支援

- ①支援単価 3,000円～8,000円/10a
- ②2つの取組まで支援(第1取組+第2取組)

リニューアールスタート
環境こだわり農業の深化

H31～

環境こだわり米
50%(H30)

平成28年度第1回滋賀県環境こだわり農業審議会での主な意見

有機農業の新たな表示に関する御意見

御意見等	委員名	審議会での回答
10年後の姿が描かれたことや、有機農業の考え方が入ったことはいずれしい。新たな表示に向けた調査の実施方法は？	永井委員	大規模経営の一部で有機農業に取り組む農家に意見を聴取。
議論が効果の出やすい「米」「大規模」に寄っている。規模の大小、米と野菜とに分けて考えてほしい。	渡邊委員	(意見)
5月から、消費者の購買行動の潮目が変わった。所得400万円以下が6割になるので、低価格が求められる。	黒川委員	(意見)

加工食品の製造基準見直しに関する御意見

御意見等	委員名	審議会での回答
加工食品の製造基準である「95%」は、緩和すれば価値が下がる。	小西委員	(意見)
マークを滋賀県らしく見直していただきたい。	小西委員	(意見)

その他の御意見

御意見等	委員名	審議会での回答
マーク表示を行う取組団体名を具体的にあげてほしい。	深尾委員	何部会か例示。
環境こだわり農業の地域差は？ 特に大津は生産者も少ないので直売所等でも少ないので。	永井委員	水稲では、大津市は7.46%、甲賀市は67%。 公表データは地域別。
市町ふるさと納税の返礼品に環境こだわり農産物も含まれているが、記載がない。市町観光協会等へアドバイスしてほしい。	竹山委員	市町に声かけする。
販売メリットが出ておらず、農業者の意識もマンネリ化している。集落に、推進地域としての看板を設置しては。	河合委員	(意見)
野菜での取組品目数はどれだけあるのか。	細川委員	パンフレット記載の品目が概ねある。
市場の立場で、生産から販売までを考えて、見える化を図る。	中井委員	(意見)
平成30年問題への位置付けが無い。	田中委員	一つの販売アイテムとして、環境こだわり米はアピールポイントになる。
緩効性肥料一発使用はリスクある。制度に柔軟性をもたせられないか。	田中委員	現場からのニーズに基づき、国と協議して設定している。
取組が拡大した場合、県や市町の財政は負担できるのか。	田中委員	県として水稲で50%の目標に向けては、何とか確保したい。
PRは「効果を作る」もの。必要なのはアイデア。	立花委員	(意見)
消費者目線では、ほとんど知られていない。子どものいる世帯は買いたいし知りたい。もっとPRすれば、もっと伸びると思う。	澁谷委員	(意見)
米袋での表示など、陳列時にマークが見えない状況がある。	黒川委員	(意見)
琵琶湖の環境保全への寄付キャンペーン。	黒川委員	(意見)
食育において、どこで何を作っているかなどの情報が届いていない。	小川委員	(意見)
交付金取組面積全国1位について、「1位」というのは伝えやすい。	小川委員	(意見)
彦根市の学校給食米に「みずかがみ」が入ったが、理由は「コシヒカリ」より安いから。	小川委員	(意見)
高い商品を選んでいただくには、マークが「食べることで、びわ湖を守る。」に直結すべき。	岡野委員	(意見)

環境こだわり米のPRキャンペーン結果

京阪神の琵琶湖・淀川流域を中心とした消費者へ「環境こだわり農産物」が「農薬・化学肥料が通常の5割以下」で栽培され「びわ湖にやさしい」ことを知っていただくとともに、滋賀県の「環境こだわり農産物」の理解浸透を図り、特に「環境こだわり米」の利用を促進するためのキャンペーンを実施しました。

1 滋賀県産「環境こだわり米」PRイベント

- ① 9月18日(日) アル・プラザ城陽
- ② 10月30日(日) イオン高槻店
・環境こだわり米食べくらべ試食会
(滋賀県産みずかがみ、コシヒカリ)



2 環境こだわり米キャンペーン

卸売業者に御協力いただき、スーパーや米穀店、生協等で販売される米袋にキャンペーンシールを貼付し、購入者が応募できるクイズ付き懸賞を実施。

- 実施期間 平成28年9月～12月(応募は平成29年1月末まで)
- シール配布数 33万4700枚
- 応募数 11,260通



● 応募はがきからの購入者の声(抜粋)

- ◇ みずかがみが大好きです。おいしいです。お米一粒一粒がしっかりとっていて、しかも、もちりと甘みがある。私は新潟県で生まれましたが米負けていませんね。(長浜市、女性)
- ◇ 環境にもやさしい、地産地消。それと「環境こだわり農業」を推進、消費拡大で近畿の水源、びわ湖を守る取組み。ぜひ協力しようとして「みずかがみ」を購入です。これからも、「環境こだわり米」を応援しますね!!(大阪府東大阪市、男性)
- ◇ はじめていただきました品種です。新米だからでしょうか。とてもおいしかったので、また購入したいと思います。農薬・化学肥料半減で、尚よろしいですね。(京都府長岡京市、女性)